



Atsuko Kudo Mail Magazine 190

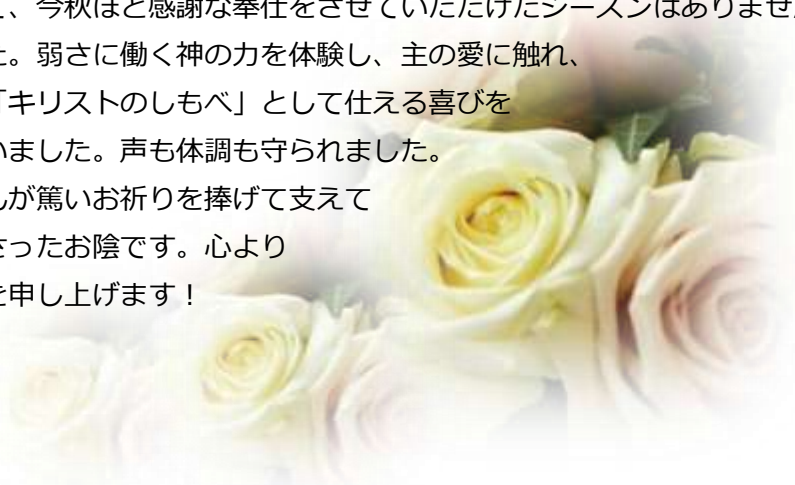
2012.12.30 ●キリエ・エレイソン!

2012年もあと1日を残すばかりとなりましたが、皆さま、お元気でいらっしゃいますか？
今年のすべてのコンサートを終え、今、大雪に囲まれた札幌の実家に来ています。



今秋は、50肩から来る、肩、首の痛みと、歌う時に声帯を開くことによって起こる後頭部の異常圧迫で、時に意識を失って倒れそうになる時期がありました。その後、治療を受けながら少しずつ快方に向かっていますが、しかし同時に、イエス様の十字架の痛みと少しだけ一体とさせていただけただけことに感謝し、主の暖かいご臨在に包まれる至福の時でもありました。

そして、今秋ほど感謝な奉仕をさせていただけたシーズンはありませんでした。弱さに働く神の力を体験し、主の愛に触れ、また「キリストのしもべ」として仕える喜びを味わいました。声も体調も守られました。皆さんが篤いお祈りを捧げて支えてくださったお陰です。心よりお礼を申し上げます！





●Kyrie

今年の讃美奉仕の中で、最も大きな企画は、11月24日、ANRC大会でのワーシップ・コンサートでした。ANRC2012「あわれみの器として召しに応える」のテーマのもと、昨年からの祈りと準備を重ねました。

今年の一月初旬、祈りの中で、詩篇57篇からプログラム・コンセプトが与えられました。合唱、楽器奏者を必要とするバッハ「短調ミサ」の『キリエ・エレイソン（意味：主よ憐れみたまえ、以降、キリエと表記）』、私たちが憐れみ、十字架に架かるため

に天を押し曲げて降りて来られた主の贖いを表現する「トッカータとフーガ 二短調」、数曲のソロ讃美と証し、最後にメシア王国を宣言し讃美するヘンデル「メサイヤ」の『ハレルヤ・コーラス』、という、大きなプログラムでした。

プログラムの冒頭に「キリエ」を選んだのは、讃美の初めに神のみ前に出ささせていただき、まず自分たちのため、そして、憐れみの器として召された祭司として、昨年の大震災で傷つきうめいている祖国日本のため、そして世界の国々のために、声を合わせて、「主よ、憐れんでください！」と叫ばせていただきたいと思ったからです。そのために、これまで様々な作曲家が作った「キリエ」の中で、私には、バッハの作品以外には考えられませんでした。

バッハが晩年に作曲した「短調ミサ」の『キリエ』は難曲中の難曲です。5声による合唱と器楽がひとつとなつて捧げる叫びで始まり、その後、刻々と展開される転調、頻りに現れる十字架を現す減七の和音、真珠のように音符に連なるシャープ（シャープはドイツ語でクロイツ＝十字架、バッハは、キリストが十字架に架けられることを表現するときに音にシャープを付けた）、呻き、悲痛、懇願が、うねるように重なって行きます。

最初は、バッハの「キリエ」は、全人類の叫びであると思っていました。しかし、罪の深さ、自分のあわれさを知り、これほどまでに「主よ、憐れんでください！」と叫ぶことができたのは、私たちの身代りに罪人となって、十字架で父なる神に叫ばれたイエス様しかいなかったのではないかと思わされるようになりました。十字架の愛が私の中で深いものとなって行きました。そして、今、キリストのいのちと霊をいただいた私たちが、「キリエ・エレイソン！」と声を合わせて叫ばせていただきたいという思いは、さらに高まって行きました。

しかし、9月の時点では、聖歌隊は、数人しか集まっていませんでした。指揮者さえ見つけていなかったのです。しかし、共に讃美を捧げてくださる人々を、主は必ずや呼び集めてくださるに違いないという確信が与えられ、祈り続けました。名指しで参加を祈った方々もいました。

その2週間後、指揮者として祈り願っていたオランダのペイトン朝子さんが参加を申し出て下さいました。コーラスも、祈った方々全員が参加を決め、その後も地元の教会を中心に、讃美者が増し加えられて行きました。

そして、11月24日のコンサートでは、約60人からなる讃美者たちと、まるで手に触れることができるかのような神のご臨在を感じながら、讃美を捧げさせていただくことが出来ました。



Kyrie eleison! 主よ、憐れみたまえ!

留学地スペインで、幻聴幻覚に苦しみ、また音楽の世界に入れば入るほど、嫉妬とプライドの泥沼にのめり込んで行きました。そんなある日、読み続けていた聖書の神に救いを求めて、「神よ、こんな憐れな私をどうか救ってください!」と叫ぶように祈った時、神は、アメリカ人宣教師夫妻を遣わし、救いへと導いてくださいました。その後、救われて後も罪を犯し続ける自分の弱さに直面するたびに、何度も主に憐れみと助けを求めてきました。

しかし、この終末の時、自分のためだけでなく、民の罪を自分の罪とし、灰をかぶって悔い改めの祈りを捧げた預言者ダニエルの如く、憐れみの器として召された私たちが、心と声を合わせて、日本のために、世界のために、神の憐れみを乞い求め続けて行く緊急性を覚えています。各地に大きな災害が起こり、悪がはびこり、多くの人々が苦しみあえいでいます。「主の時」は迫っています。

神よ。私をあわれんでください。私をあわれんでください。
私のたましいはあなたに身を避けていますから。

私はいと高き方、神に呼ばわれます。
私のために、すべてを成し遂げてくださる神に。

神は、天からの送りで、私を救われます。
神は私を踏みつける者どもを、責めておられます。

神は恵みとまことを送られるのです。

あなたの恵みは大きく、天にまで及び、
あなたのまことは雲にまで及ぶからです。

神よ。あなたが、天であがめられ、あなたの栄光が、
全世界であがめられますように。

*詩篇57篇より



NYから駆け付け、心を打つバレエ讃美を捧げてくださった今泉友希さん。

●お知らせ

1. 11月15日 AKWM 主催のチャリティーコンサートでは、主は、今年も満席になる多くの来場者を集めてくださいました。約26万円の収益金を、岩手県で献身的な救援活動を続けておられる「3.11 いわて教会ネットワーク」にお捧げすることが出来ました。ご協力くださった皆様に、紙面を借りて、心よりお礼申し上げます。

2. クリスマン新聞 12月23日/30日号に ANRC 大会特集記事が掲載されましたので、以下の URL を開いてお読みください。 <http://allnations.jp/anrc12/images/pdf/CN20121223.pdf>

1月7日にドイツへ帰ります。1月～3月、ドイツにて、みことばの学びと今後の活動の準備に専心する予定です。どうぞお祈りください。

良き年末年始を過ごされますように!
来る年に、主の溢れる祝福をお祈りしています。

Atsuko Kudo

